

目指す学校像	宮原小の152年の伝統を受け継ぎ、信頼を土台に子ども一人ひとりが輝ける学び舎
--------	--

重点目標	1 「主体性」「学びの達成」「読解力」「言語活動の充実」をキーワードにした確かな学力の定着 2 健康・体力向上と安全な学校づくり 3 コミュニティ・スクールを核とした学校と保護者、地域との強い絆で結ばれた学校づくり 4 教育に携わるプロとしての自覚をもち新たな教育課題に敢然と立ち向かう教職員集団の育成
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査では、国語科、算数科ともに全国平均をやや上回る結果となっている。 ○市学習状況調査では、国語科・算数科ともに市の平均とほぼ同じ結果となっている。 ○昨年度課題の一つに挙げた国語科の「書くこと」の結果が向上してきている。 <課題> ○全国学力・学習状況調査や市学習状況調査の結果分析から「基礎学力の定着・向上」が課題である。 ○「情報の扱い方に関する事項」での平均正答率が、他の項目に比べ低い傾向がある。 ○市学習状況調査の結果からは、「読むこと」に課題が見られた。	・テキストを正しく理解し自分の考えを相手に伝えることができる児童の育成 ・国語科を中心とした「読解力」向上を目指した授業改善	①児童が自身の状況を振り返り、言葉で表現できる振り返りの場面を授業や学校生活の様々な場面に位置付ける。 ②授業においてICTを効果的に活用し、児童一人ひとりが自分の考えを表現するとともに、他者の表現にも多く触れることができる場面を設定する。	①児童が自己の学習を振り返り、自らの学習状況を把握し、目標を立て、達成に向けて主体的に学びを進めることができたか。 ②学校課題研修において、ICT活用の効果を検証し、授業にフィードバックできたか。				
			①全国及び市の学力学習状況調査の最新の結果を分析し、指導方法の改善に向けた研修を行う。 ②国語科を中心に「読解力」の向上を目指した校内研修を実施し、全教員が研究授業又は公開授業を実施し、授業改善を行う。	①学校課題研修会等において、全国及び市学力学習状況調査国語科の「読むこと」の結果を分析し、指導方法の改善につなげることができたか。 ②国語科の読解力向上に関する研究授業、一人1回以上の校内公開授業を実施し、授業改善につなげることができたか。				
2	<現状> ○怪我マップの作成と分析を通して、怪我多発箇所の改善と、教職員の怪我防止指導を行っているが、令和5年度の怪我による保健室来室は延べ1,357人であった。 ○建物の老朽化による、危険箇所や整備が必要な箇所があるが、日々の点検や月毎の安全点検の結果から早期の修理対応し、施設の修繕漏れ事故を0にすることができた。 <課題> ○怪我多発箇所の改善及び怪我防止への児童の安全意識の向上への取組を継続する必要がある。 ○毎月の定期的な安全点検及び、日常の点検を実施し、速やかな整備を進め、安心・安全で美しい環境を維持することが必要である。	・怪我を減少させる取組の充実とともに、怪我発生時の対応の確実な実行 ・安心・安全で美しい教育環境の整備	①怪我マップを作成・分析をし、怪我多発箇所の改善を行う。 ②安全な学校生活を送るための生活の仕方を具体的な場面ごとに繰り返し指導するとともに、怪我が発生した場合には即時適切な対応と保護者への連絡を徹底する。	①怪我マップの作成と分析を通して、怪我多発箇所の改善と、教職員の怪我防止指導強化し、児童の怪我の減少につなげることができたか。 ②怪我の大小にかかわらず、発生時には保護者との連絡を密にすることで、信頼関係を築くことができたか。				
			①日々の点検で危険箇所を早期に発見し、即時安全措置と対応をする。 ②定期的な安全点検で発見した不備は放置せず即時修繕への対応を実施する。	①施設の修繕漏れに関わる事故を0件とすることができたか。 ②学校評価の「安全管理の状況」について、保護者・学校運営協議会委員・教職員とも肯定的回答95%以上となったか。				
3	<現状> ○令和5年度は「スローガン『つなげよう あいさつ 伝えよう ありがとう 深めよう きずな ～学校・家庭・地域が手を取り合って～』実行のための手立て」をテーマに「挨拶のさらなる推進」について熟議を重ねた。 ○学校だより、学校ホームページ内で、会議の記録や、取組の報告、家庭への取組協力依頼などを行い、広く情報発信をした。 <課題> ○より多くの保護者・地域の皆様方に御協力いただけるよう、コミュニティ・スクールについて情報発信を継続していく。 ○「スローガン」に基づいた具体的な実践により、地域とともに歩む学校づくりを推進する。	・学校だよりや学校ホームページなどを活用した、学校運営協議会取組内容の積極的な発信 ・「スローガン」を生かした、具体的な実践	①学校運営協議会における熟議等の概要を、学校だよりに掲載することで情報を発信する。 ②本校のホームページにおいて、学校運営協議会の記録を掲載することで、広く情報を共有する。	①学校だよりの中に、学校運営協議会の取組について掲載することができたか。 ②学校ホームページ「コミュニティ・スクール」の項目において、広く情報発信することができたか。				
			①第1回学校運営協議会にて実践について熟議を行い、内容を決定したのちに実践を行う。 ②第3回学校運営協議会において、実践の振り返りと、課題や改善点について熟議を行い、次年度の実践につなげていく。	①スローガン『つなげよう あいさつ 伝えよう ありがとう 深めよう きずな ～学校・家庭・地域が手を取り合って～』を生かした、具体的な実践ができたか。 ②第3回学校運営協議会において、次年度への課題等を取りまとめることができたか。				
4	<現状> ○昨年度ICT教育についての研修を実施し、授業でのICT活用が向上してきている。 ○学校課題研修やその他の校内研修、日々の情報交換や打合せ等丁寧に実施し、教職員の資質向上に努めている。 <課題> ○授業の中での有効なICT機器の活用方法について、更に研修を深めていく。 ○学校教育のプロとしての意識や指導力の向上について、組織的な研修の実施と実践の充実を図っていく。	・ICT機器の活用による授業づくり ・学校課題研修や校外での研修の充実 ・学年教科等部会等での情報共有と実践	①学校課題研修の手立ての一つとして「ICT機器の効果的な活用」を位置付けて授業づくりを行う。 ②学校課題研修を組織的に実施充実し、全教員が授業を公開し協議することで、指導力の向上を図る。 ③教職員の各会議やコミュニケーションの中で、児童や指導、実践に関する情報の交換をしやすい雰囲気醸成し、実践につなげ教職員全体の資質向上を図る。	①児童生徒の端末活用調査の結果がさいたま市の平均値と同等以上になり、学校評価のICT教育について肯定的回答が80%以上となったか。 ②全教員が授業公開を実施するとともに、学校課題研修に関する児童の実態調査で結果の向上が見られたか。 ③学校評価の教職員の教科指導や生徒指導等に関する項目について、十分満足の回答が前年比で1.5倍以上となったか。				